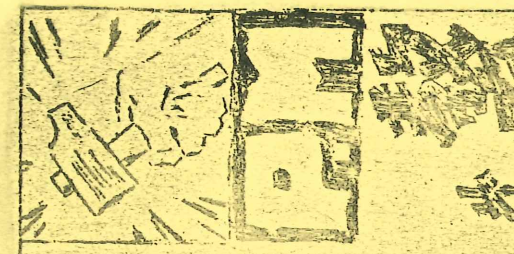

PM教育部ニュース

第三号　一九三二年　五月八日発行

活動の基礎を正しい理論の上に！

四月の研究会活動は下記の報告通り不成績だった。

プロ文化四月号の巻頭論文「一年次大会の為に」にも文化聯盟全体の政治的及び組織的立ちおくれ克服理論的創作的活動の強化の急務が指摘されて居る。中でもプ科、P.P.作同等は比較的発展した団体として尚それ等の事が批判されて居るがP.Mは特に批判の対象にさへ入って居ない。ナップ時代からコップになった今日までP.Mが対象となる場合はP.M強化の問題だ。勿論友誼団体に援助されて遂に強化する事は望ましい。併し何時までも聯盟の弱い一環として、そうした風にばかり問題になるのはP.Mの恥だ！

P.Mの誕生が浅いと云ふ口実はもう役に立たない。情勢が熱して居る場合 先に生れた団体が踏んだヂグザグの道を飛び越えし、且は立ちおくれは克服されるべきだ、今に至って未熟練の適かった事を云ふ者は、努力の不足を合理化する丈だ

P.Mの最大の弱点は何か！

政治的組織的理論の弱さ、創作的技術的理論の弱さだ

[illegible]精力的に活動しておるにも拘らず充分な成果の上らぬのは理論的な弱さからだ。

政治的な正しい認識、理論があってこそ内容もプロレタリア的にする事が出来るのだ、創作技術の理論もそこから生れるのだ。おしゃべりをしておたって始まらぬ、と云ふのは間違ひだ、活動から切り離されたおしゃべりは成程無役だが実践に根ざした理論をもって計画的になされねば活動を百パーセントに効果的にする事は不可能だ。

粗雑なプロレタリア的テーマを未熟な創作に盛り 未熟な演奏をくり返すならばプロレタリア音楽の発展はこれ以上には望めない。文全メンバーの組織に対する認識と訓練がないならP.Mの組織活動は少数組織部員の連絡に終止して同盟員の獲得もせんの係加も決試だ得れに終るだらう

我々は活動の成果を効果的におさめるために、我々の弱点であった理論の確立、獲得をしなければならない。

P.M員は機関紙を読んでゐるか、他団体で喧々囂々批判や意見の捲き起って居る論文についても、P.Mで討論の対象になったかを聞いた事が殆ど！　戦新聞、三大、音新読んでおるか、讀り放し、発行し放しではないか。

意見批判の出ないのは何故だ！

研究会に出席の悪いのは何故か？

教育部の加盟闘争は不活発を極めて積極性を失ってゐる者、自己教育に熱心のない者、どちらにしても敗北的態度だ

研究の為にはどしどし出席して意見を述べ研究会を充実させ、正しい方向へ導く様努力すべきだ。全然無関心な者も直ちに態度を改めねばならぬ

全同盟員の積極性が生じて決して我々の研究会は充実したものとなるのだ

今度は八一カンパまで、永い期間会合其の間会員はだらけることなく日常

活動を遂行すると会時に特に研究会に重点をおいてあらゆる研究と計劃に押し進めねばならぬ。

★五月の教育部研究会に全メンバー参加しろ！

★各班では技術研究会を計画的に持て！

★自主的研究会をモリ〱起せ！

五月研究会プラン

★組織問題

プロ文化聯盟、サークル、サークル代表者会議の組織的認識よりサークルの指導方法其他

★ニュース・音新の批判

★新メーデー歌研究

四月研究会の報告批判

四月八日（流会）

★研究題目「一九三二年メーデー歌」は[illegible]

四月十五日　出席者（岩科、武田、佐藤、新鍋、斎藤、岸谷、伊藤、仲口、細田、赤松、林、青木、他一計十三名）

★研究題目「戦争とファシズム」を中心として（前回流会の問題）討論形式

★批判　1.出席者の少かった事

2.出席者の予定が一時間も遅れた為め討論会の形式がずれ一般的だったが随って重大な問題にも触れ得なかった

3.講座の為予定した講師が欠席し出席しなければならない人が出なかったので

P.Mとして最も適当なものであったかも知れないが充実した内容まで押し進められなかった責めは同盟員全般にある。

4.今後はプロ科其他から資料を借りて同盟員自身で独自に研究会を持つ様にならなければならぬ

弾圧が激しく各団体とも忙しくなる時だけに自主的研究会が持てないだらう

四月十四日は（流会）

研究題目「組織問題」と「新メーデー歌」の予定

議題出席者不為[illegible]委員会に提出

批判摘要

1.組織部を中心としてメーデーカンパに向ってサークルの指導方法、同盟員獲得、移動に当っての対策等 当面の具体的問題をのせる予定。次に十日の研究の上に立って新メーデー歌に対する討論をまとめ、直にサークル、移動へ適用し組織の一つの方法にする予定

2.教育部がまっ先に立おくれの上に次々の流会で最大の問題を同時にやってはならなくなった研究会同盟員は自己批判しなければならぬ。しかも今生へ流会になった。

其の後新しく召集するには公演練習、事務開始まで日がなくて遂に流会のまま四月を終った。

自主的研究会について

現在自主的研究会として決定したものは左の五つだ

音楽史（オルゴフの論文を中心）

責任者（高杉、青木）

エスペラント

責任者（赤松）

ドイツ語

責任者（原）

楽理

責任者（作曲班）

唯物論

責任者（未定）

以上は現在までの決定で先づ責任者は最初の会合を召集して研究方針を決定して直に実際的研究に入って欲しい。教育部でそれらの具体的プランを発表する（臨時号に）